

北の森林 国有林



北海道森林管理局



春の森を彩るカタクリ（寿都町樽岸）



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林



主な
取組事項

北海道森林管理局は、北海道の森林面積の55%に当たる307万㊦の国有林を守り育てています。

平成20年度は、主な取組として次の8つのテーマを掲げ、「国民の森林づくり」を進めていきます。

北海道
国有林

1. 国民参加の森林づくりの推進

●企業による森林づくり活動

地球温暖化の防止など地球環境保全への関心が高まっている中で、企業が社会貢献活動の一つとして取り組もうとしている森林づくり活動に対し、国有林内の台風被害跡地などを活動場所として提供します。

●ボランティア組織による森林づくり活動

常呂川森林環境保全ふれあいセンターでは、「オホーツクの森自然再生モデル事業」や植樹、森林散策の実施を通じ、今年新たに設立された森林ボランティア「オホーツクの会」の活動を支援します。



台風被害跡地でボランティア植樹

2. 森林とのふれあい・教育的利用の推進



「遊々の森」で子どもたちと森林教室

●レクリエーションの森の整備・活用

ニセコ神仙沼自然休養林や知床地区ほか8個所で歩道のバリアフリー化などの整備を進めていきます。

●森林環境教育の推進

■「遊々の森」協定締結の推進

森林での体験活動を通じ、子どもたちの人格形成や知識習得を目指す「遊々の森」協定について、学校等との締結を推進します。

■グリーン・サポート・スタッフ（GSS）の活動

登山道や林道の巡視・整備、入林者へのマナー啓発等を行うGSSの活動地域に「雌阿寒・オンネトー」と「恵山」を追加、知床地域などでは増員を行います。

■森林ふれあい推進事業の実施

森林散策等を通じて森林とのふれあいの場を提供するため、2回のイベントを開催します。

■各地で開催されるイベントへの協力

『オホーツク「木」のフェスティバル』において、森林の普及・啓発のための各種イベントを実施します。



森林ふれあい推進事業で森林レク

3. 知床自然遺産地域における取組み



知床・ボランティア等活動拠点施設

●知床の森林を国民参加で永久に守るため

■ ボランティア等活動拠点施設

5月9日に斜里町ウトロ地区にオープンします。
また、現在、同町中心部にある知床森林センターの庁舎を同ウトロ地区に移転新築します。

■ 知床の自然を楽しく学ぶツアー

北海道庁との共催で9月27日に実施する「育樹祭」をメイン行事として、9月26～28日、東京からの2泊3日のツアーを関係機関と連携して実施します。

4. 公益的機能重視の森林施業等の推進

●NPO等との連携による自然再生の推進

■ 上サロベツ自然再生協議会における取組み

利尻礼文サロベツ国立公園内の上サロベツ地区で、水位の低下や湿原の乾燥化等に対する対策を検討するための各種調査を実施します。

■ 釧路湿原自然再生協議会における取組み

釧路湿原上流部の雷別地区で、ミズナラ、カシワ等の郷土樹種からなる森林へ再生するため、天然更新や住民参加による植栽、植生や甲虫等のモニタリング調査を実施します。



自然再生に向けた郷土樹種の種子採取

●災害から国民の生命財産を守るための取組み

■ 災害防止に向けた治山対策の取組み

荒廃地拡大のおそれやその周辺の荒廃危険地における大規模災害を防止するため、新たな治山施設の設置や既設の治山施設を活用して、効果的・効率的な対策を進め、土石流等の災害から国民の生命財産を守ることに努めていきます。

■ 森林の防災機能の強化に向けた取組み

集中豪雨や台風等により山地災害が発生した地域で人家や公共施設等に多大な被害が及ぶことが懸念される場合は、溪間工や森林整備の実施により荒廃地の復旧整備を図り、森林防災機能を回復させます。

また、治山工事の実施に当たっては木材を多用するなど、自然環境にやさしい施工技術の開発にも取り組みます。

■ 台風等による森林被害地の復旧への取組み

平成16年9月の台風18号による森林被害地を復旧するため、地拵を約780㍻、植付を約1,040㍻実施します。

また、平成18年10月の低気圧による森林被害地を復旧するため、植付を約190㍻実施します。



土石流災害から市街地を守る治山施設



植栽による森林防災機能の強化

5. 地球温暖化防止対策の推進



人工林での間伐の推進

●森林吸収目標の達成に向けた森林整備の推進

■人工林間伐の推進

約39,000㍏の人工林で間伐を実施し、森林吸収源対策に積極的に取り組みます。

■笹生地等の森林への改良

旺盛な笹の繁殖により天然更新が阻害されている個所を対象に、原生植生をイメージした植え込み等による森林再生を実施します。

■森林土木工事における木材利用の推進

地球温暖化防止に貢献するため、国有林内の治山・林道工事に間伐材を積極的に利用します。

6. 生物多様性機能の充実

●生物多様性の保全に資するプロジェクトの推進

優れた自然環境を有する森林の維持管理を推進するため、生物多様性の保全に資する現地プロジェクトを道内の4地域で推進します。

●保護林設定区域の見直し

保護林内の機能評価に必要なデータを収集し、保護林の体系的な管理を推進するため、翌年度に森林計画を樹立する区域内の保護林でモニタリング調査を実施し、今後の管理に反映していきます。



保護林でのモニタリング調査

7. 国民の森林としての管理経営



サミットが開かれる洞爺湖

●北海道洞爺湖サミットへの対応

■記念行事の開催等

サミット開催時期に合わせて、自然環境の保全や地球温暖化防止に果たす森林の役割を広くアピールするために、地元漁協等と連携したサミット会場周辺国有林の環境整備、「国際交流森林環境フォーラム（仮称）」の開催、「美しい森林づくり」を紹介するパネル展示及びリーフレット配布などを行います。

■不法投棄防止への取組み

国有林内における廃棄物の不法投棄を防止するため、巡視と啓発活動を強化します。

●モデルプロジェクトの推進

野幌森林公園（江別市ほか）において、市民参加による植栽木の保育、侵略的外来種の一部駆除、モニタリング調査、「野幌森林づくり塾」などを行います。

●自然再生と森林環境教育の推進

森林環境保全ふれあいセンターでは、自然再生と森林環境教育を推進するため、自然再生ボランティア団体等への技術指導、「森林づくり塾」の開催、生物の特徴等を学ぶ観察路の整備、森林環境教育の指導者向けマニュアルの整備を行います。



森林環境教育の推進

8. 林業・木材産業の再生



森林認証制度の学習会



道産木材を使った住宅の建築



「森の市」で道産木材の利用をPR

● 網走西部流域の森林認証後の取組み

■ 森林認証材での家づくりの支援

森林認証による持続可能な国有林経営をPRするとともに、森林認証材の供給を通じて北海道の林業・木材産業の再生に取り組みます。

■ 森林認証材の活用に向けた取組み

北海道庁など関係機関とも連携し、ポスター等の作成、認証工場拡大への支援、認証材の利用拡大に向け、地元工務店への制度趣旨のPR等を通じて、網走西部流域の森林認証の普及を推進します。

■ 森林認証材の供給を通じた

持続可能な森林経営の普及・啓発

森林認証取得による国有林経営に対する信頼度の向上を図るとともに、国有林の地域振興への寄与をアピールします。

● 国有林材の安定供給と道産材の利用推進

■ 素材のシステム販売の推進

人工林間伐材の需要を拡大すると共に、木材の生産・流通・加工の担い手を育成するため、素材のシステム販売を行います。今年度の協定量の目標は、昨年度の3倍に相当する15万m³とします。

■ 国有林材の販売コストの削減

国有林材の安定供給体制を確立するため、各分野において、図面を活用した簡易な調査方法の導入や製品生産事業請負の一般競争入札を推進し、コスト削減に徹底的に取り組みます。

■ 道産材の利用推進

5月末に開催する「森林の市」や10月の「木づかい推進月間」に開催するイベント等を通じ、道産材の利用推進をPRします。

主要事業量

記者発表を行いました



きます。

北海道森林管理局では新年度も引き続き、道民のみなさんとともに健全で、活力ある森林づくりを進めていきます。

四月十八日（金）、北海道国有林の主な取組みについて、マスコミ各社向けの記者発表を行い、記者のみなさんから熱心な質問を受けました。

区分	単位	19年度当初	20年度当初	対前年度比	
収穫量	主伐	千m ³	334	192	58%
	間伐	千m ³	985	975	99%
	計	千m ³	1,319	1,167	88%
販売量	立木販売	千m ³	596	431	72%
	製品販売	千m ³	433	465	107%
造林	地拵	ha	2,506	1,857	74%
	植付	ha	1,952	2,129	109%
林道	新設	km	56	53	94%
	改良	km	75	63	84%
治山事業	百万円	(3,695)4,426	(2,406)4,429	100%	

注：（ ）は前年度繰越額で外書

紹介します

北海道森林管理局

計画部長

安 樂 勝 彦



昭56・4 農林水産省入省

平2・8 北海道営林局

振内営林署長

平4・8 北海道営林局

職員厚生課長

平11・4 群馬県林務部

森林保全課長・林政課長

平14・4 林野庁木材課

木材環境技術専門官

平15・7 林野庁治山課

山地災害対策室長

平18・4 近畿中国森林管理局

森林整備部長

平20・5 現職



子どもたちの元気なかけ声が響く 緑の募金活動



1. 道庁赤レンガ前でカミネッコに苗木を植えました
2. 募金協力員のボーイ・ガールスカウトのみなさんと一緒に募金を呼びかける谷口次長

4月26日（土）、春の風物詩「緑の募金」の街頭募金出発式（主催 北海道森と緑の会）が、募金の普及啓発と「北海道洞爺湖サミット」の気運醸成及び成功を願い、札幌市中央区の北海道庁赤レンガ前で開催され、北海道森林管理局からは谷口次長が出席しました。

当日は晴天に恵まれ、主催者及び来賓のあいさつの後、山本北海道副知事や谷口次長からボーイ・ガールスカウト代表へ募金箱と緑の羽根が伝達され、両代表から元気に決意表明が行われた後、カミネッコによる苗木づくりなどが行われました。

その後、会場を札幌三越前に移し、道行く市民に募金協力の呼びかけとライラックの苗木のプレゼントなどを行いました。

（指導普及課）



フレッシュマン24名

森林づくりへの決意新たに入庁式

4月8日（火）、平成20年度北海道森林管理局新規採用等職員24名の入庁式を行いました。

式では山田局長から「公務員としての責任ある行動」、「失敗をおそれずチャレンジすることの重要性」等について訓辞があり、国有林のフレッシュマンとして新たな一步を踏み出した職員は決意を新たにしていました。

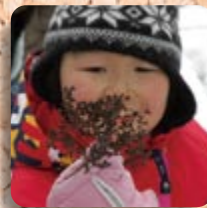
（総務課）

自然 to 遊び隊!

第 1 話

自然の中で楽しく遊び、
その大切さ、すばらしさ体感!

道内各地で活躍中の“隊長さん”を紹介します



中頓別町「森」の価値を再発見!

～春はオオルリ・身近な自然の不思議を遊び学ぶ～

中頓別環境ボランティアサークル

森ぱる's

「あつ、花が違うんだ! フキノトウにも雄と雌があるのかあ」、目を凝らしてフキノトウと向い合っていた参加者から驚きの声があがった。道端の植物から新しい発見をしたその時、当たり前前に知っているとされていた自然に深みが生まれ、春景色の彩りが少しだけ増す気がする。

これは四月二十日に『そら自然学校(中頓別町)』で開催された自然観察会での一場面です。

北のてっぺん、稚内市から一〇〇kmの中頓別町は、北緯四五度の北方圏に位置します。明治時代に砂金が発見されたことから歴史がはじまり、原生林を切り拓いた林業華やかな時代も今は昔、現在は酪農を基盤産業とする人口二千人の小々な町です。

私は六年前、豊かな自然が身近に存在するこの町に惹かれて移住しました。そして、地域の森をテーマに活動する『森ぱる's(し

んぱるす)』という住民グループと出会いました。

森ぱる'sは中頓別町に暮らしていた森林官が中心となり立ち上げた、環境ボランティアサークルで、小学生から八〇代のおじいちゃん・おばあちゃんまでが、一緒に森林や自然に親しむ活動を楽しんでいます。

毎年、春は林道で野鳥の観察を行い、オオルリの鮮やかな青色にため息をつき、子どもたちはサンショウウオの卵を突っついていきます。

また、中頓別町では森林の価値を高める新しい活動が始まっており、今年の春から、自然活動を通じて子どもたちの育成を促す『そら自然学校』の取組みが始まりました。

それから、中頓別町国保病院の住友和弘院長が、森と健康づくりを結びつけた『森林療法』の取組みを全国に発信しています。

これらの活動には森ぱる'sも加わり、また多くの

住民参加があります。

住民の自然への思いは、身近な森に寄添って暮らしてきた地域性・歴史が反映されているのかもしれない。「森づくりにつながる地域です。

これからは森林を活かした取組みに、国有林の職員の皆様をはじめ、多くの方に知恵を貸していただきたいと思っています。

どうぞ一度、中頓別町にお越しください。道北の森でお待ちしております。



今月の“隊長”

森ぱる's事務局
西原 央 騎 さん

2003年中頓別町に移住し、昨年まで観光協会スタッフとして町の魅力を発信。現在、養蜂の修行中で、宗谷地域ならではの逸品、チシマアザミを蜜源とするハチミツを作る33歳。プロジェクトワイルドエドゥケーター・PLTファシリテーター。

○森ぱる'sの連絡先 Tel/Fax (01634) 8-2500 (西原)



足寄町から雌阿寒岳を遠望



風倒被害に悪戦苦闘の一年

今年こそ自然の猛威に振り回されることなく

森林づくりに取り組みたい



十勝東部森林管理署

署長

山田 孝信

十勝東部森林管理署は十勝森林計画区の北東部に位置し、中央を十勝川支流の利別川が南に流れていま

す。管内はこの川に沿って陸別町、足寄町及び本別町の市街地が発達し、農業・林業の一次産業を中心とした地域に広がる、約十三万畝の国有林を十六の森林事務所で管理しています。

は平成十六年の台風による被害木処理を終えて、いよいよ復旧造林をと考えていた矢先の平成十八年秋、異常に発達した低気圧による風倒被害を再び受け、その被害木調査とその処理作業に終始し、「とにかく慌ただしい一年だった」というのが実感です。

えましたが、この十年程の間に職員の平均年齢は五十代から一気に二十代となり、各分野で技術の継承が心配される場所ですが、このような中、年度初めの安全会議では、伐木造材作業基準等に係る熱のこもった勉強会を開催（災害事例による原因分析等）、今後は生産現場での「作業仕組」等についての研修会を予定し、その対策を図っています。



子どもたちに緑の大切さを伝えています

私生活においても「サミット開催」にふさわしい一年としたいと考えているところです。

森林環境保全 ふれあいセンター



森林環境保全ふれあいセンターは、
国有林をフィールドとした自然再生
や生物多様性の保全、森林環境教
育などの活動を支援しています。

三月二十六日(水)、野幌森林公園内において侵略的外来種とも言われるニセアカシアの伐採を実施しました。

野幌では、平成十六年秋の台風被害地に多数の市民の参加を得ながら植栽を始めとした森林再生活動「野幌プロジェクト」を進めています。一部は再生活動地ではニセアカシアの自然発生が著しく、プロジェクトの目標とする「百年前の原始性が感じられる自然林」づくりに支障をきたすことが懸念されたため、特に発生著しい再生活動地



の周囲にある母樹二十一本を選定しました。
ニセアカシアを駆除するための伐採の適期は、萌芽

野幌のニセアカシアは、大正時代に植栽されたもの後継樹と考えられ、今回の伐採木のなかで一番太いものは直径五十センチ、樹高二十一・五メートル、樹齢は年輪から約五十六年生でした。

力が多少弱まる夏期(八月頃)が有効であるとされていますが、春から秋にかけては多くの一般市民が公園を利用するため、比較的公園利用者が少なく、伐採時に植栽木などが傷つかない積雪期に伐採をすることとしました。

ニセアカシアは繁殖力が非常に強く、切り株や根からも萌芽再生するため、生長状況を調査しながら「継続的に刈払う」、光を遮断するために「防草シートで切り株を覆う」などして経

過を観察することとしています。
なお、伐採木は、丸太の椅子や柵など野幌森林公園内で利用することになっています。
(堀川 自然再生指導官)

札幌市の地球に優しいまちづくりを進める西区民会議から、西区のエコキャラクター「さんかくやまべエ」を主人公に環境活動手引き絵本が発行されました。

この絵本は、西区の小学校5・6年生23名からなる「こども編集局」が、市内で環境活動に取り組んでいる団体や企業などを取材して、環境とは何かを学び、そしてどんな環境問題がおきているのか、自分にできることは何かをストーリーとして作成されたものです。

絵本作成にあたっては、昨年10月末、当センターに「こども編集局員」7名が取材に訪れ、センター所長が森林

の持っている大切な役割や私たちの生活や環境と森林との関係などについて丁寧に解説したところ、できあがった絵本ではセンター所長の似顔絵入りの記事となりました。



治山最前線 利尻島の国有林治山

無尽蔵の崩壊土砂にむかって

山地の保全・災害復旧などの治山事業を現地で担う各地の治山事業所からのレポートを紹介します



3



1



4



2



宗谷森林管理署
おしどまり
鶺泊治山事業所

海へ続く溪流で進められる治山事業

利尻島の主体を成す最北の活火山「利尻山」(一七二一㍉)は、日本百名山の一番目の山で毎年約一万人の登山者が訪れ、その伏流水「甘露泉水」は、日本百名水に数えられ、山麓の森は「森林浴の森百選」にも選ばれています。

利尻山は誕生から約二十万年を経ていますが未だ地球の営みに合わせて自然浸食を受け続け、すそ野の大半は石や砂が堆積した扇状地。ガレ場には今も無尽蔵の土砂・岩石が貯まっており、一度大雨が降ると土石流となって、河口へと流れ出します。

近年では平成十八・十九年と二年連続して土石流が発生し、幸いなことに負傷者こそ出ませんでした。が、ワーシヨベルが流されたり、橋が埋まったり(写真1)しました。

このような中で一番悩んでいるのは島の漁師さん達で、漁場に土砂が入り込むと地元名産の利尻昆布やウ

二などの魚介類が被害を受けてしまいます。

そのため利尻島では宗谷森林管理署がこのような土石流災害を防止し、島民のみなさんが安心して生活できるように治山事業(写真2)を進めており、その現場を担っているのが鶺泊治山事業所です。

現場では「低ダム群工法」という、溪流に低いダムを連続して設け、この複数のダムによって水と土砂を分離し徐々に流動エネルギーを弱め、溪流空間全体で土砂の流出を抑えるという工法をとっています。ダムにはカラマツ化粧型枠(写真3)を用い景観との調和も図っています。

また、現地で発生した土砂をふるい分けて活用した「鋼製護岸工」(写真4)も併せて施工しています。

当事業所では昨年は数十件の治山工事を抱え、役場や漁協との打合せを密にしながらか工事を進めてきましたが、多数の治山施設が完

成した結果、少しづつではありますが、土石流被害が少なくなってきたように感じます。

今年も雪解けとともに治山工事が始まりますが、今後も引き続き島民のみなさんが安心して暮らせるよう頑張っていきたいと思っています。

利尻島に赴任し一年が過ぎ、観光スポットにもだいぶ詳しくなりました。島を訪れる際には一声おかけください。

宗谷森林管理署
おしどまり
鶺泊治山事業所

- 利尻富士町鶺泊字栄町195
- 電話 / 0163-82-1529

主任 大井 諭史



森林官 リレー

大雪山系のすばらしい自然を未来へ

現場第一線での実践から

大雪山の環境保全の大切さを伝えたい



上川中部森林管理署
層雲峡森林事務所
(森林官事務取扱)
管理官

山田 和良

国内最大の国立公園

石狩・層雲峡森林事務所が管轄する国有林は、その大半が国内最大の国立



黒岳山頂（1984年）から石室を望む

公園「大雪山国立公園」内に位置し、雄大な山岳地帯の絶景と、活火山からの恩恵である「層雲峡温泉」での湯浴みを求め、年間約二五〇万人もの観光客が訪れます。

GSSと共 に大雪山 を守る

当森林事務所では、国立公園内での保全業務を担っており、この業務には平成十八年度から、グリーンサポートスタッフ（以下「GSS」）。天然生林管理水準確保緊急対策事業で一般公募



登山者を誘導するGSS

した臨時作業員）が加わり、登山道の巡視・整備、入山者へのマナー啓発、入山者名簿への記載指導等を実施しています。

昨年度は、大雪山系での登山、スキー経験が豊富な山を愛する三名のスタッフが森林パトロール事務所に配置され、我々職員とは違った角度から登山者らに接し、国有林が実施している

保全業務の重要性などを伝えました。

大雪山の問題点

には、年間約六万人の登山者があり、このことに伴う山のトイレ・登山道の荒廃・野生動物へのえさやり等の問題を抱えています。

こうしたモラルの問題には啓蒙が大切であり、登山者の理解をいかに得るかが日々のテーマです。

環境問題

が大きくクロースアップされている現在、現場第一線で出来る環境保全を実践し、利用する人たちにそれを伝え、この国内最大の国立公園を未来に残す一助になればと思います。日々業務に当たっています。



黒岳山頂に立つ山田管理官

層雲峡・大函・石狩 合同森林事務所

- 上川郡上川町川端町13
- 電話01658-2-3322

森づくり体験活動の予定

6/14 (土)

野幌森林公園植栽地

下草刈り1回目 (参加者一般公募)

野幌国有林 (江別市)

6/16 (月)

簾舞ボランティアの森

下草刈り (参加者一般公募)

簾舞国有林 (札幌市)

6/17 (火)

ボランティアの森

森林整備と森林観察

(参加者一般公募)

奥定山溪国有林 (札幌市)

7/11 (金)

ピアノの森

下草刈り (参加者一般公募)

恵庭国有林 (恵庭市)

7/26 (土)

野幌森林公園植栽地

下草刈り2回目 (リピーター主体)

野幌国有林 (江別市)

8/2 (土)

MOTTAINAIキッズ

プロジェクト簾舞植樹

(札幌市西区子ども会)

簾舞国有林 (札幌市)

9/9 (火)

枝打ち・除伐体験

(リピーター主体)

恵庭国有林 (恵庭市)

10/4 (土)

枝打ち・間伐体験と工場見学

(参加者一般公募)

千歳国有林 (千歳市)

10/10 (金)

簾舞の森にふれ学ぶ

(簾舞小学校)

簾舞国有林 (札幌市)

10/12 (日)

親子参加の森づくり

(参加親子一般公募)

簾舞国有林 (札幌市)

北の森を

「守り・つくり・活かす」

北の森21運動を市民参加で

「北の森21運動の会」は、平成八年の発足以来、ボランティアによる森づくり活動を続けています。今年も、北海道洞爺湖サミット記念イベントや昨年の全国植樹祭植栽地の保育に参加することはもとより、年間活動として植樹、下草刈り、枝打ち、除間伐などの森づくりを市民参加で実施します。また、次代を担う子どもたちが森にふれ・森に学び・森づくりに参加する場の提供に努めます。加えて、森づくりの輪を広げるため、各地のボランティア団体と連携して活動



昨年の森づくり植樹活動から

し、その中で育樹ボランティアを対象とした刈払機・チェーンソー研修も行う予定です。(企画課)

森づくり支援の活動

◇ボランティアによる団体との連携◇

- ・新山川草木を育てる集い植樹祭
- ・コープ札幌みどりグループ

下草刈り作業

- ・キリンビール法人の森 除間伐作業
- ・支笏湖周辺台風災害復興の森

下草刈り作業

- ・アオダモ資源育成の会植樹祭

◇地域活動との連携◇

- ・全国植樹祭記念の森保育作業

(苫小牧市)

- ・北海道洞爺湖サミット記念植樹

(有珠山山麓)

- ・厚岸「町民の森」造成植樹祭

- ・旭川木材親交会・CCC保育活動

- ・函館市民参加の植樹の集い

北の森21運動の会事務局

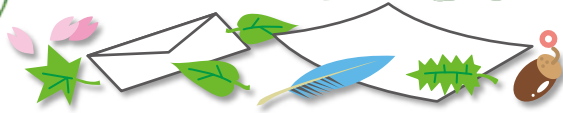
〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目
北海道林業会館内 電話&FAX 011-242-8321

◇構成団体◇

北海道・北海道森林管理局・北海道林業協会・北海道木材産業協同組合連合会・北海道森林組合連合会・北海道森と緑の会・北海道森林整備公社・北海道林業士木連合協議会・日本森林技術協会・林野弘済会など関係69団体機関



各地からの便り



【寿都町・後志署】 4月22日(火)、寿都町において北海道一大きなミズナラと最北ブナ林の見学会を社団法人日本技術士会北海道支部の主催で開催し、平日にもかかわらず、町内外から50名の参加がありました。

当日は、残念ながら、例年より融雪が進み、ミズナラの巨木に近づくことができませんでした。が、町内湯別の寿都温泉周辺の森の、日本で一番標高が低い所にあると言われるブナや国有林のブナ天然林を見学し、「こんな立派な森が街の近くにあるなんて」、「周囲は造林されているのに、なぜこれだけの天然ブナ林が残ったのだろう」など感嘆の声があがっていました。

続いて隣接するトドマツ人工林で黒松内森林事務所の松本首席森林官から間伐方法の説明があり、普段なかなか見ることができない国有林の森林管理について、参加者全員興味深く聞き入り、「木材生産のためだけではなく、森の環境に配慮した間伐方法をとっていることを初めて知った」などの感想を話していました。

最後に、「民間と国有林のコラボレーション」とも言うべき、町内樽岸にある「法人の森林」を見学し、契約者である寿都砕石(株)の蛭澤専務から「南後志のブナなど様々な樹木や植物が一個所で見るのできる森林です」との説明を聞きながら、ヒグマの爪痕が残るブナの木や、カタクリの群落を散策しました。

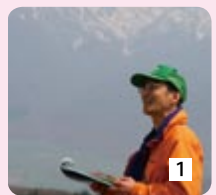
(寿都町役場産業振興課)

寿都町で

ミズナラ巨木と 最北のブナ林を見よう!



4



1



2



3

1. 概要を説明する松本首席森林官
2. 巨木を遠望「あそこだ!」
3. ブナ林を調べる北海道大学春木准教授
4. 大人2人でも抱えられないブナ

山火事に備えて

空中消火機材の使用訓練



【留萌北部署】

4月23日(水)、林野火災の空中消火に安全かつ迅速に対応するため、羽幌合同

森林事務所(羽幌町)で、留萌南部及び宗谷署と合同で空中消火資機材の組立・使用訓練を実践しながら行いました。

当署にはヘリコプターによる空中消火薬剤、バケツ等が配備されており、近年では、昨年7月、今年4月21日の林野火災時に出動しています。

山火事は起きないのが一番ですが、万が一の場合には今回の訓練により適切な対応が出来るものと考えています。

北海道洞爺湖サミット記念

さっぽろに緑を広めよう!



【石狩署】 5月31

日の「藻岩山の日」に藻岩山国有林等を会場に「さっぽろに緑を広めよう」連絡協議会主催の北海道洞爺湖サミット記念イベントを開催します。

当署では石狩地域森林環境保全ふれあいセンターとも協力し、植栽フィールドの提供、苗の製作体験、パネル展示などを行い、国有林からの情報発信を行います。みなさんぜひ遊びにいらしてください。

○問い合わせ 同協議会事務局 011-211-2376

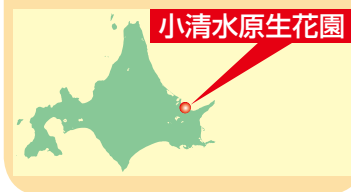
●ACCESS●

アクセス

●列車：JR釧網本線 原生花園駅（夏期のみの臨時駅）下車。同駅をはさむ藻琴～浜小清水間には道路とレール双方の走行が可能なDMVが試験走行しています。

●バス：網走バスターミナル～原生花園前バス停下車（30分）

●車：網走市から16km（20分）・女満別空港から32km（40分）



小清水原生花園



小清水原生花園は、オホーツク海と瀧（たき）湖に挟まれた全長八キロほどの網走国定公園に指定されている砂丘です。六月から八月にかけて、エゾスカシユリ、エゾキスゲ、ハマナス等、約四十種類の花が季節ごとに咲きほこり、小高い砂丘からは秀峰斜里岳や知床連山も見渡すことのできる美しい景観

を誇る風景林です。この美しい原生の姿は、砂丘の真ん中をかつて駆け抜けていた蒸気機関車の火花による野火や、放牧されていた牛馬の食として、花々の生長を阻害する雑草が自然に取り除かれていたからこそその風景です。これらがなくなってしまうと美しい花々が衰退した時期もありましたが、十数年



花々の群落を守るための「野焼き」

ほど前から美しい植生を復元するため「小清水原生花園風景回復対策協議会」が設立され、支庁・町・森林管理署が合同で「野焼き」を毎年四月に行っています。今では、一番列車が通過する前の早朝に実施する野焼きがオホーツクの春の風物詩となっており、火入れ後の一面の焼け焦げた丘がひと月後には色鮮やかな花が咲き乱れるコントラストは美しさとともに、自然の強さを実感します。国定公園でもある原生花園風景林は、多くの人々の努力により守られた美しい自然公園ですので是非一度足を運んでみてください。

レクリエーションの森 小清水原生花園 網走南部森林管理署 紹介

広報「北の森林 国有林」5月号 No.96

発行 北海道森林管理局

編集 保全調整課

〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70

I P 電話 050-3160-6274

電話 011-622-5231

F A X 011-622-5235

<http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/kyoku/>

▽六月十二日（木）
にしんの森再生プロジェクト委員会
留萌南部署管内

▽六月八日（日）
洞爺湖サミット記念植樹
上川中部署管内

▽五月三十一日（土）
第22回「森林の市」
ふれあい広場あつべつ

▽五月二十五日（日）
第59回北海道植樹祭 in 中標津
中標津町

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報